

実習目的・内容・計画について

(1) 臨床（臨地）実習Ⅰ

①目的

歯科医療の現場や歯科衛生業務を理解し、実習生としての基本的な態度を身につける。また、歯科衛生業務に興味を持ち医療人としての姿勢を学ぶ。

②内容

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 医院の歯科衛生士に同行し、歯科衛生士業務を学ぶ。
- ウ. スタッフ（他職種）協働、連携したサービスを学ぶ。
- エ. 患者様とのコミュニケーションを図る。

③計画

令和2年1月、各学生は、1件につき4日間、2件の歯科医院にて実施する。

(2) 臨床（臨地）実習Ⅱ

①目的

学内で身につけた基礎知識、技術を臨床に結びつけ、患者のことを考慮した歯科疾患の予防管理、歯科診療補助を行うために、診療・術式の流れに適した対応と実践できる能力を身につけるための知識・技術・態度を習得する。

②内容

(歯科医院)

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 環境整備、臨床準備、感染防止、臨床技術（チェアーサイドの共同動作）を行う。
- ウ. 受付業務、他職種との連携を図る。
- エ. 患者様とのコミュニケーションを図る。
- オ. 口腔清掃指導、予防管理を理解し行う。
- カ. 実習講師による実習の総括

(保育施設)

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 園の日課に参加する。
- ウ. 園児とのコミュニケーションを図る。
- エ. 年齢の違いによる社会性、行動についてコミュニケーションを通して理解する。
- オ. 昼食、おやつを通して口腔の発達段階を確認し、口腔清掃方法の指導について考える。

③計画

- ア. 令和元年11月～令和2年2月に、各学生は、1件の歯科医院で12～15日間、3件の歯科医院にて実施する。
- イ. 令和元年7月に、各学生は、1件の保育施設にて5日間実施する。

(3) 臨床（臨地）実習Ⅲ

①目的

歯科診療補助への適した実践への更なる知識・技術の習得に努める。さらにライフステージごとの患者を捉え、病状を把握し、情報の収集、分析、処置、予防管理・継続的指導を行うために必要な臨床技法および知識を習得する。また、地域医療との連携における歯科衛生士の役割並びに他職種との連携を学び理解する。

②内容

(歯科医院)

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 環境整備、感染防止、臨床準備、臨床技術（チェアーサイドの共同動作）を行う。
- ウ. 受付業務、他職種との連携を図る。
- エ. 患者様とのコミュニケーションをとる。
- オ. 安全性確保、ヒヤリハット・アクシデントの予防を図る。
- カ. 高齢者・障がい者歯科への診療介助を行う。
- キ. 実習講師による実習の総括

(福祉施設)

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 施設の日課に参加し、高齢者とのコミュニケーションを図る。
- ウ. 福祉施設での他職種スタッフを理解し、協働・連携を学ぶ。
- エ. 介護技術（食事介助等）を行う。
- オ. 食事前の集団健口体操を行う。
- カ. 担当利用者様への情報収集、アセスメントをとり、口腔ケアの短期目標・計画立案し、実行する。

(総合病院・歯科福祉センター)

- ア. 施設オリエンテーション
- イ. 環境整備、感染防止、臨床準備、臨床技術（チェアーサイドの共同動作）を行う。
- ウ. 他職種との協働・連携を学ぶ。
- エ. 歯科と全身疾患とのかかわりを学び、診療の介助を行う。
- オ. 障がいの内容を理解し、実際の支援法を学ぶ。
- カ. 歯科衛生士の役割、業務を理解する。

③計画

令和元年5月より11月まで、各施設での実習を82日間実施する。